



野寺小だより

学校教育目標

- ・よく聴き、よく考える子
- ・心のゆたかな子
- ・からだのじょうぶな子

たんぼぼのように やさしく つよく のびのびと
～ 家庭・地域とともに一人一人が輝く野寺小学校 ～

児童数730名
7月号 令和5年7月3日

人を知る一番よい方法は、よく人を見ること

岡田 智彦

映画『ワンダー 君は太陽』は、生まれつき容姿にハンディを持つオギー少年が11歳にして初めて通うことになった学校で、偏見や友情に揉まれながらも逞しく成長していくお話。

この映画には、オギー少年の他にも多くの魅力的な人物が登場します。奨学金のため、はじめは嫌々オギーの相手をしていたが、次第に魅力を感じ親友となっていく少年ジャック。オギーに対して偏見的な態度をとる友達に嫌気がさし、オギーと行動を共にするようになる少女サマー。息子に学校という負荷を与えつつ身の縮む思いで見守る両親。思春期の悩みに翻弄されながらも弟のことを何よりも優先する姉オリヴィア。オギーを傷つけた少年とその威圧的な両親に断固とした姿勢で対応する校長先生（私自身もかくあります）。そのすべての人々とのつながりの中には、どんな時代であっても人が忘れてはいけない熱い気持ちが溢れています。

この物語においてオギー少年のハンディはその容姿でした。しかし、知力・体力・コミュニケーション能力・家庭環境等あらゆる分野で考えれば、ハンディを持たない人間などごくごく稀であるといえるでしょう。多くの人々は他人に知られないようにコンプレックスを抱え、現実とのギャップを調整しながら懸命に生きています。もちろん、自分のウィークポイントに気づくことなく“のほほん”と暮らせている素敵な人も少なからずいるにはいるようです。

ジャックは別の友達との会話の中でつい口にした「僕がああ顔だったら……」という心にもない言葉をオギーに聞かれてしまい、二人の友情は一度壊れてしまいます。小学校でも時折耳にする“言葉の刃”は物語の成立に必要なものであることがわかってはいても、聞いていてやはり気持ちの良いものではありません。

自らの言葉を反省し再びオギーとの友情を取り戻そうと努力するジャックは、執拗にオギーをいじめる少年を、奨学金のことも忘れて後先考えずに殴りつけてしまいます。職務上、暴力での解決にエールを送ることはできませんが、この場面に心が震えるのはどうにも止めることができません。

さて、野寺小学校の子供たちにとってのジャックは、サマーは誰でしょう。きっと一人一人を主人公にした学校生活にもこの映画に負けないくさんの魅力的な人物が登場するのでしょう。現在は多用性を認める時代です。自分と違う他人を認め、人と違う自分を大事にすることを社会でも学校でも学びます。日本人は人と違うことを恐れるあまり、少数派に排他的な傾向があると言われますが、一方で古くから「人は人、自分は自分（よそはよそ、うちはうち）」というアイデンティティーを重んじる言葉もあります。野寺小の子供たちにもハンディに負けないく逞しい心を持ってほしいと思います。

オギー少年の最後のセリフは『人を知る一番よい方法は、よく人を見ること』。自虐的なユーモアにあふれた、けだし名言であろう。